

開催日:2023年10月15日(日) 18:00~20:00

会場:Zoomによるオンライン会

参加者: 清水(49C)、鶴岡(44M)、佐野(62W)、阿部(雅)(47修C)、奥山(52E)、松永(47C)、吉平(50C) 二宗(46M)、森口(四国)、中村(四国)、金井(川越)、麻生(川越)、荒井(佐野)、小西(埼玉)、倉林(平塚)、笠谷(四国)、松原(埼玉)、堤(宇都宮)、星野(高崎)

合計 19名

2020年の7月に、異業種交流会を開いた店にPCを持ち込み、試験的に会員とZoomで接続して始めたのがきっかけであった。

その後好評で、「毎月やれ」ということで、異業種交流会の開かれない偶数月に開催してきて、今回は25回目という節目の会となった。

最初の30分は参加者の近況報告となっている。コロナが5類になって、世間の様子も変わってきた。首都圏では若者を中心に電車でも半数はマスクなしであるが地方都市ではまだマスクが多いという。自分や家族を含めてコロナにかかったという人もいるが、いずれも病状は軽かったという報告が多い。なかには2度かかったという人もいた。

また外に出るの運動やトレーニングを再開したとか、芸術の秋になり自分の趣味の分野の活動にピッチが上がってきたという風に、コロナ禍で低迷していた活動も、どんどん元に戻りつつある近況であった。

今回のトークは、川越支部の金井勇さん(46修C)で「野鳥撮影15年の思い出」という話であった

鳥の写真撮影のきっかけは、近所の公園散歩時に、カワセミに遭遇し、その色の美しさにひかれて夫婦で撮影したことであった。

そして15年間に撮影したものの中から、思い出に残った野鳥を30種類ほど紹介した。



色の美しい鳥、よく似た鳥、歌に出てくる鳥、珍しい鳥などいずれも美しい映像で見せてくれた。

カメラとレンズの技術進歩により、色や明度度が格段に向上した。連写の技術、ピント合わせの技術等の進歩により、飛んでいる写真も撮れるようになった。そして飛んでいる鳥の目まで確認することができるような写真も撮れてきた。

この15年の振り返りとして以下のように述べられた。鳥を求め歩くということで健康に良いという良い趣味に出会えた。

人との出会いで繋がり、いろんな情報も得られた。夫婦で車で出かけ写真撮影することにより、お互いの役割も認識し、いい関係が構築できたと最後に結んでくれた。

その後の懇談では、同じように鳥の写真撮ってる人から地方によって観察できる鳥も違っている事が分かったという声があった。参加者の多くは、声はするけど姿が見えない鳥をどのように発見して撮影するのかの驚きや疑問、飛んでいる鳥を撮影することについての技術的な質問も多かった。

幹事のつぶやき一言

この発表は約2か月かかってまとめていただいた。写真の方はまだまだ沢山あるが、その中から選び出すことに苦労したとのことである。鳥の写真の美しさと同時に、退職した後、夫婦が同じ趣味を持って、その役割分担の中で今まで以上の繋がりになってきていることを皆さんに知ってもらいたいと、幹事としては感じたこの会でした

文責 二宗(46M)

今回の参加者

